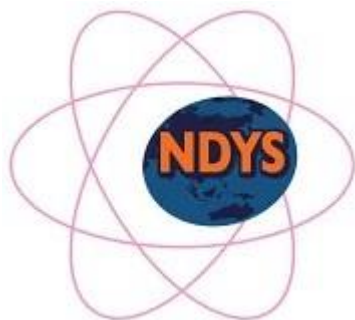


# 防災世界子ども会議

## Natural Disaster Youth Summit NDYS とは？



防災世界子ども会議は、世界と学び合う「国際協働学習」による持続可能な防災教育の促進を目的とするオンラインプロジェクトです。世界の小中高校の子どもたちが、ICT を活用して、さまざまな国・地域の防災の知恵や災害から学んだ教訓を世界と共有し、学び合い、自然災害の「防災・減災・復興」という全世界的な課題解決に取り組み、その成果を世界へ、未来へ発信する \*iEARN の日本発プロジェクトです。

半年間のネット上の国際協働学習の後に、まとめとして「会議」をもちます。そのミッションは、地球規模の防災意識を共有しながら、国連の持続可能な開発目標 SDGs に向けたそれぞれの国・地域の防災への取り組みに、国の枠組みをこえ、協働で問題を解決する力を身に付け、未来を創ることです。このため、ネットワークづくりを進めています。



\* iEARN (アイアーン International Education and Resource Network) は、世界 140 カ国・地域、30 言語、5 万人の教育関係者、200 万人の生徒からなるネットワークを構築している国際 NGO。お互いの生活や文化の違いを話し合うものから、グローバル社会が抱える課題など、国連 SDGs と連動した独自のプロジェクトが 100 以上あり、国際協働によるプロジェクト学習を通して、世界の次世代を対象に、グローバル・シチズンシップ教育に取り組んでいます。

### ■ NDYS のはじまり

阪神・淡路大震災 10 年の 2005 年 1 月、神戸での第 2 回国連防災世界会議の開催を機に、「大震災の教訓を世界の子どもたちに伝えよう、命の尊さを考えよう！」と、ひょうごの子どもたちと海外の学校との交流学習から始まりました。



「コミュニケーションが命を救う！」をスローガンに、災害が引き起こす惨状に目をむけ、子どもたちが、命を守る重要性に気づき、命を守る判断、行動、備えができることを目的として開催。2005 年、ひょうごから産官学民の連携・協働による事業としてスタートし、グローバルな防災教育ネットワークの基礎を築きました。これまでに 66 カ国・地域の学校が参加しています。

### ■ 参加者の声

#### ◎ 生徒の学びの体験メッセージ (JEARN10 周年記念事業の冊子より抜粋)

外の世界に興味があるが、その関わり方がわからなかった。しかしプロジェクトとの出会いで大きく変わった。何が変わったのか。何ができるようになったのか。どうして自信がついたのか。それは、いいタイミングで、新しい世界に飛び込む勇気が必要だった！

多様性の中での交流を体験し、自分自身と向き合い、自分のモチベーションを見つける機会を得ることができた。このことが、私の将来の人生設計に大きなインパクトを与えている。

他国の文化や言語に興味をもつようになった。さらに、学習や表現の違いを知ることとなり、気持ちよく意見交換できる場を設定できる柔軟性と思いやりをもつことが大切であると感じた。

地球規模の課題を理解し、防災だけでなく、環境・エネルギーなどの課題を、より身近に感じとれるようになり、同じ時代を共に生きているのだと実感した。

英語でのコミュニケーション力は不足していても、自分の気持ちを伝えようと努力をするようになった。この場面で、英語でどのように表現すればいいのかと考えることで毎日が楽しくなった。

## ■ 国際協働学習：SDGs を防災の視点から学ぶ

ICT とグローバルネットワークが支える「国際協働学習」

▼ 参加対象 世界の小学校・中学校・高等学校

▼ SDGs 実現のための国際協働学習プログラム

グローバル災害安全マップをみんなで作ろう！



<国連 持続可能な開発目標 SDGs とは>



2030 年に向けて持続可能な社会を実現するための地球規模の優先課題などを明らかにした国際目標

NDYS 国際協働学習ポータルサイト <http://ndys.jearn.jp/>

## NDYS2018 テーマ：気候変動と私たちの住むまちの「防災・減災・復興」

今世界がどのような問題に直面しているかを知り、自分の問題として考えることから始まります。

子どもたちの住む地域の自然災害をとりあげ、課題を探り、災害安全マップづくりからスタート！

地域の人々の力を生かした備えの大切さを学び、世界の子どもたちが「会議」に集結！プレゼンテーションや災害安全マップ展で、取り組みの成果・課題解決策を広く発信！

<NDYS のめざす SDGs 目標>

### 持続可能な開発目標 11

<住み続けられるまちづくりを>の達成



#### 地域へリスクを伝達！

災害安全マップづくりを通して、地域の守りたいものや危険な個所を見つけ、どのようにして被害を最小限にとどめるかを考えましょう！ 地図は地域の災害安全マップとして完成！

**世界各国・地域のマップをひとつにまとめると  
グローバル災害安全マップが完成！**

### 持続可能な開発目標 13

<気候変動に具体的な対策を>の達成



#### 多様化、多発化する災害に備えて！

テレビ会議・アイアーンコラボレーション・センターなどの Web 上での交流・情報共有を通して、考えを深めながら

#### 国際協働で問題解決！

NDYS2018の成果発表会は、2018年7月、新潟市で開催の「琴リンピック2018 in 新潟」と同時開催の予定です。

## ICT が支える学びの環境

### ◎ テレビ会議・Web 会議

リアルタイムでのコミュニケーション・コラボレーション活動の支援・記録のツールとして常に活用しています。

### ◎ iEARN コラボレーション センター

世界と学び合う「国際協働学習」を実践できるネット上の学びの場です。このコラボレーションセンターに入り、協働学習のしぐみをマスターして、対話・発表・提案などをします。



「防災世界子ども会議 2016in 新潟」  
Web 会議を通しての神戸市立葦合高校の発表



## ■ 未来への目標・方向性

### < SDGs 実現への NDYS のチャレンジ！ >

これまで防災といえば、地震や津波を想定していましたが、社会が多様化する中、災害は多様化、多発化し、求められる防災の形が変わってきています。多様化、多発化する災害に備えての気候変動対策は、全世界的な重要な課題となっています。

NDYS は 2016 年より、この課題解決のために、SDGs の 17 の目標から、特に目標 11 & 13 の実現を目指して、気候変動と私たちの住みまちの「防災・減災・復興」をテーマに活動に取り組んでいます。

この活動は、世界の若い世代を巻き込み、国内外の SDGs 実現を支援するヤングリーダーの育成など大きな効果を生むと考えられます。



図: 防災世界子ども会議 NDYS ロードマップ

### お問合せ

参加ご希望の学校は JEARN(ジェイアーン)の NDYS 事務局まで、Eメールでお申し込みください。

NDYS 事務局: 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 ひょうご国際プラザ気付

NPO 法人 グローバルプロジェクト推進機構 JEARN 神戸事務所内

TEL&FAX: 072-680-2115 E-mail: ndys@jearn.jp

NDYS2016 宣言

2016.8.7

## 新潟宣言

2016年1月、持続可能な開発目標を2030年までに達成すべく、17の目標を設定し、「誰一人取り残さない」社会を目指し、国際社会が新たな出発をしました。

この年に、防災世界子ども会議は、持続可能な開発の観点からの防災教育がさらに必要であり、活動を活性化させるために、NDYS2016より方向性が一致するSDGsの実現を目指した取り組みをスタートさせました。アイアーンのネットワークを通して、世界10カ国・地域から参加のNDYSスクールの子どもたちは、半年間の国際協働学習の総仕上げとして、8月3日～8日、新潟市に集まり、この取り組みの最初の成果を、プレゼンテーションやポスターセッション(災害安全マップ展示など)の実施と報告書の提出で、各学校のそれぞれの取り組みを広く発信しました。

8月7日、琴リピック会場で、今会議の成果をまとめ、次のとおり新潟宣言を採択しました。

(英文)

***“To kindle the passion within,  
students need to take responsibility,  
for the world is in their hands.”***

(和文)

この胸の内にある情熱の炎を燃やして、  
私たち学生は責任を果たしていきます。  
世界の未来は私たちにかかっているのですから



会場 | 新潟市民芸術文化会館 りゅーとびあ コンサートホール

新潟宣言を採択し、それぞれの言葉で宣言文を発表しました。  
トップをきって、日本代表で宣言する兵庫県・甲南高等学校の藤井君(右)

参加国・地域：アメリカ合衆国、イラン・イスラム共和国、インド、インドネシア共和国  
オーストラリア連邦、コロンビア共和国、中華人民共和国、トルコ共和国、台湾、日本